

V87c JVOの研究開発（プロトタイプ3のデモンストレーション）

川野元聡、水本好彦、大石雅寿、白崎裕治、田中昌宏、本田敏志、大江将史(国立天文台)、安田直樹(東大宇宙線研)、増永良文(お茶の水女子大)、石原康秀、山崎昭一、瓦井健二(富士通)、中本啓之、小林佑介、吉田徳夫(セック)

近年様々な観測装置によって、様々な波長域で観測が行われており、膨大な量の観測データが生産され、これらのデータの多くがアーカイブデータとして公開されている。このような複数の波長域のデータを使った統計的な研究を行うには、分散配置されたデータベースへ一元的にアクセスし、各データベース同士で検索や解析ができるシステムが必要である。我々はこのような研究を可能にするシステムとしてVO（仮想天文台）の開発を進めている（大石の講演を参照）。

現在開発中のJVOプロトタイプ第3版では、

1. 欧米のVOと相互に接続し、アーカイブデータのやりとりができるようになり、
2. JVOの提供するデータベース上にSXDSのデータが登録され、検索等が可能になった。

上記1、2により、JVOプロトタイプ第3版は、実用的なサイエンスの道具に一步近付いたといえる。

本公演ではJVOプロトタイプ第3版の紹介を行うとともに、実際に年会会場から国立天文台三鷹にあるJVOシステムに接続し、データを検索、解析、表示するといった機能のデモンストレーションを行う。サイエンスシナリオの例として、QSO周辺のイメージ検索による母銀河の探索などを示す予定である。